コンテンツ産業の課題と テクノロジー

──フェアユース時代とAI

(株)ブロックチェーンハブ／(株)コンテンツジャパン　堀鉄彦

©ビジネスモデル図解制作委員会

©コンテンツジャパン堀鉄彦

デジタル化で起こったこと

blockchain hub ©コンテンツジャパン堀鉄彦

インターネットで大きく変わったビジネス環境。中心技術のひとつがAI

2000年〜	2005年ぐらい〜	現在	2019年〜
デジタル化 ネット化	デジタルプラットフォーマーの登場	双方向メディアの利用拡大	分散型メディア／金融プラットフォームの発展
ネット普及前	**インターネットの登場**	**ITプラットフォーマーによるデータ独占時代**	**AI／ブロックチェーン／IoTが産業基盤に**
情報流通の独占が可能でコストがかかる時代	情報流通の限界費用がゼロに近づく。規模を拡大しても追加コストなし	巨大プラットフォーマーは「情報収集における限界費用ゼロ」を実現。**情報収集の寡占化進む**	人工知能／IoTによる「機械のメディア参加」。スマートコントラクトによる意思決定自動化領域拡大
情報発信＝マスメディアの独占 ➡	ネットメディア／ブログなどの登場で情報発信者は多様化（一方向） ➡	双方向／参加型メディアを通じた情報流通拡大 ➡	通貨など価値の融合が自由になり「金融サービスが限界費用ゼロ」となる。あらゆる「価値のマージ」を起点とした発展
既存業界秩序の中での発展。問屋／代理店金融依存度大	業際・国際化による発展	オンラインとオフラインの境目をなくす「オンラインマージオフライン（OMO)」による発展	オンラインビジネスとオフラインビジネスの境目がなくなりトレーサビリティ可能な領域が拡大。「オフラインビジネスの限界費用がゼロ」に
直線的な成長	エクスポネンシャル（指数関数的）な発展が可能に		

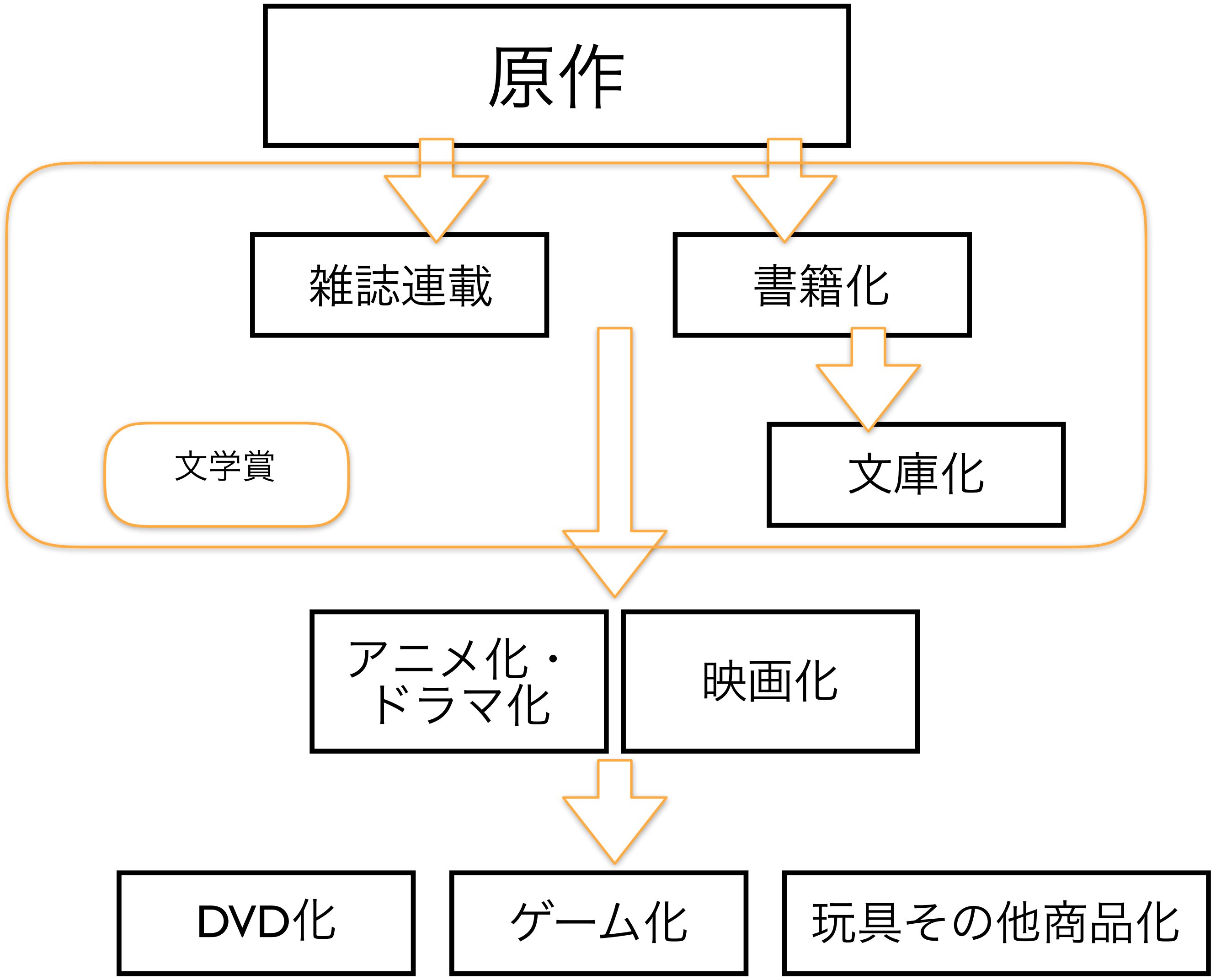
blockchain hub

©コンテンツジャパン堀鉄彦

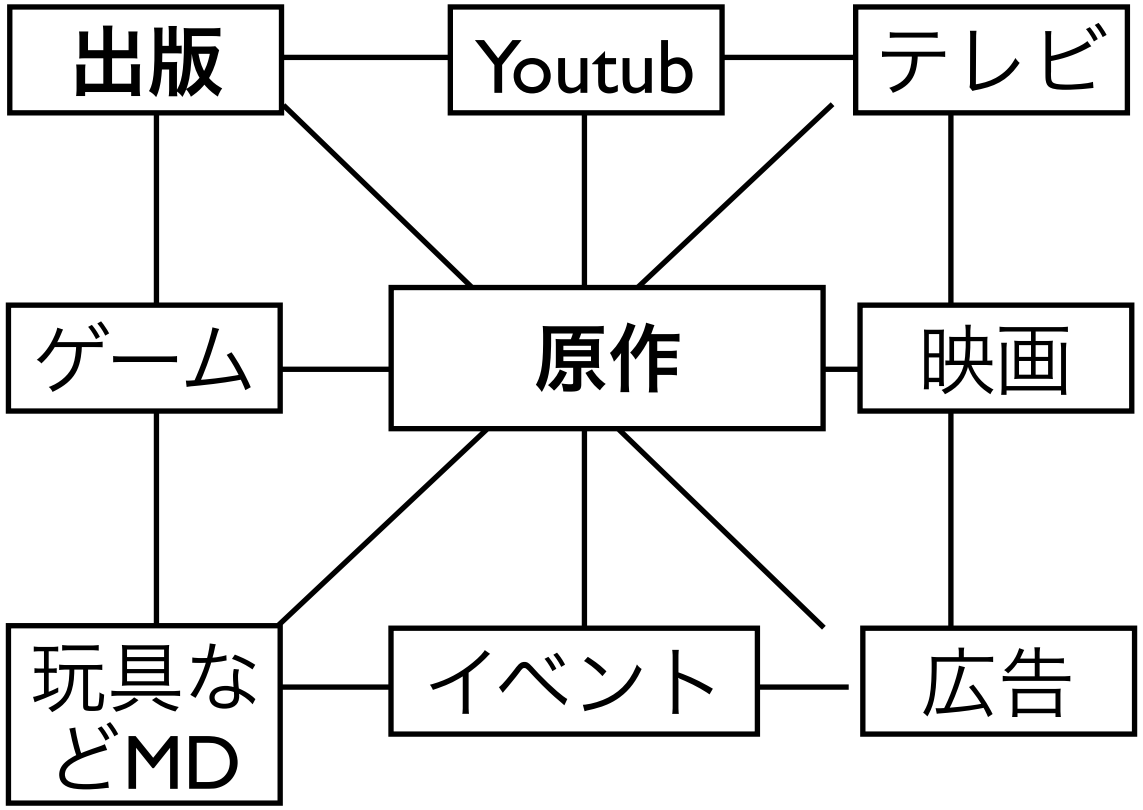
次は何の限界費用がゼロになるか？

流通の際がなくなり「データさえあれば」どんなビジネスにも展開可能な時代が来てしまった

●これまでの出版ビジネス



●出版以外のプラットフォームも原作と直結可能に



AI×データ×フェアユースが業界の変化を加速

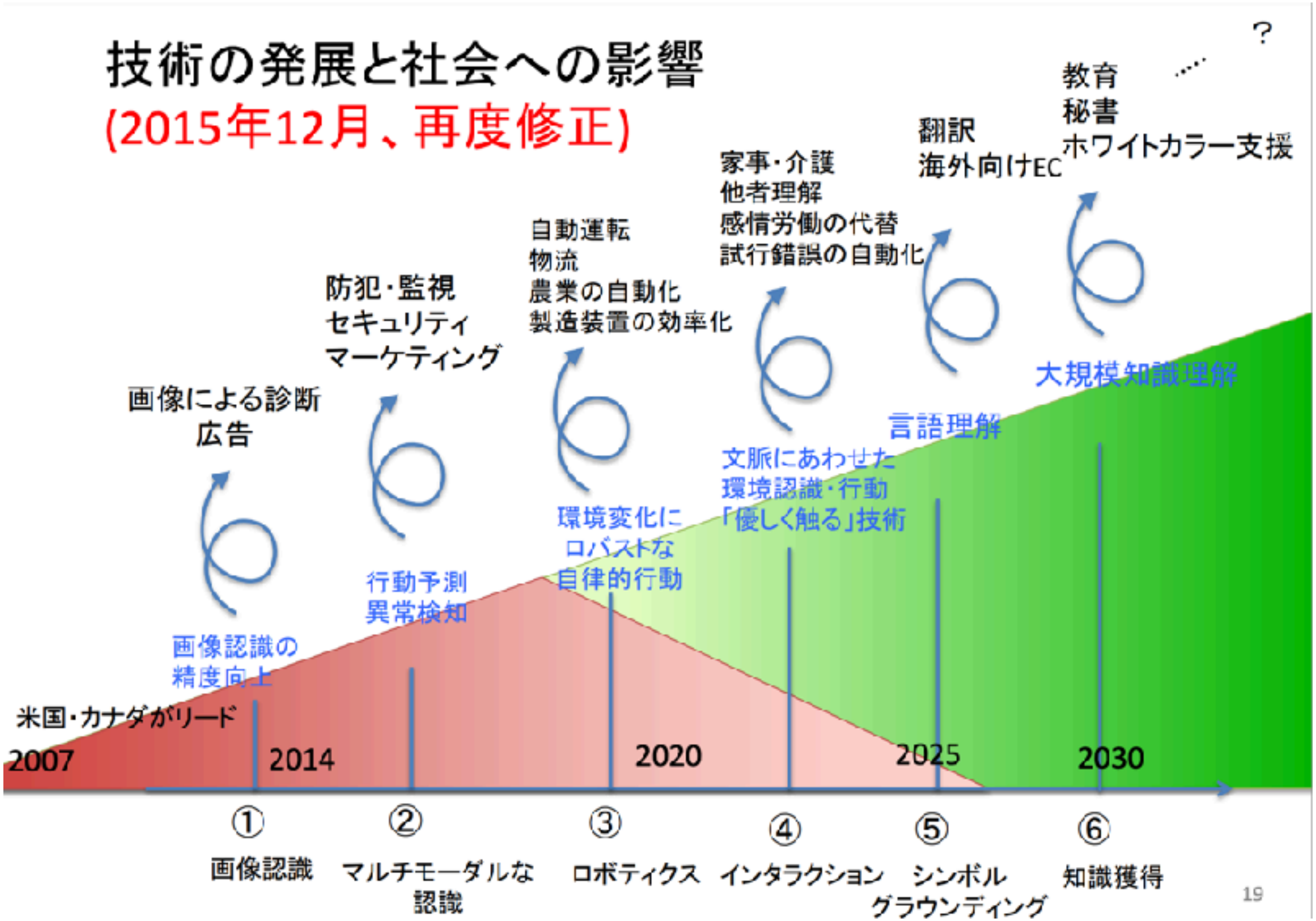
blockchain hub

©コンテンツジャパン堀鉄彦

人工知能でできること

blockchain hub ©コンテンツジャパン堀鉄彦

人工知能、開発のロードマップ



©コンテンツジャパン堀鉄彦

総務省「人口知能の未来　-ディープラーニングの先にあるもの」資料より（2016, 松尾豊）

たとえばFacebookはこんなことに利用している

1日約100億枚の写真が投稿されており、人間によるチェックは不可能　だからAIをフル活用している

①ふさわしくないコンテンツの削除→暴力的だったり、性的だったりしないかを瞬時に判断

②コンテンツのリコメンド／マッチング→AIで写真の内容をより深く理解し、誰が「いいね！」するかを判断する。たとえばネコ好きの人には、ネコが写っているとAIが認識したものを優先的に見せる。写真だけでなくすべてのコンテンツの内容をより深く理解するようにし、どのユーザーに見せるべきか、誰に好まれるコンテンツか、という判断を的確にできるよう研究を進めている。また、視覚障害がある人のためにAIで写真の内容を把握して音声で説明したり、テロ行為や自殺願望をほのめかすような写真・動画投稿を検知して迅速に対応したりということにもAIを活用している。

「今日のSNSはどれもAIなしでは存在しえない。なぜなら表示するコンテンツを高度に選択しないと、ノイズが多すぎるからだ。いかがわしいもの、不適切なものを機械的にフィルターにかける機能がない状態では、あっという間に危険なプラットフォームになってしまう」
（東洋経済オンライン　2018年1月24日記事　「フェイスブックのAIがぶち当たった｢限界｣」より）

blockchain hub ©コンテンツジャパン堀鉄彦

データを集積し、さまざまな“新しい”作品ができるようになった

2016年　・レンブラントの新作創造システム

・「コンピュータが小説を書く日」2星新一賞一次選考通過

2018年　・「AIのMIRAI、俳句の未来俳句対局in北海道大学」開催

・人工知能で描かれた絵画、Christie’sのオークションで約5000円の値がつく

2019年　・Adobeが作品の「タッチ」を再現する技術を発表。写真などからゴッホ風などの絵画作品生成可能に

・「generated.photosがこの世に存在しない人間の著作権フリーのオリジナル顔画像10万枚掲載

・**「ディープフェイク」**が世界で蔓延。Facebookは10億円超を投じてディープフェイクの識別に賞金プロジェクト発足

blockchain hub ©コンテンツジャパン堀鉄彦

すでにさまざまなコンテンツ生成システムが稼働中

Logojoy	サイト上で、自社の会社名、会社のスローガンを入力し、ロゴのスタイル、アイコン、カラースキームなどから気に入ったものを選ぶと、それらにしたがってAIがデザインしたいくつかのロゴの選択肢を提案してくれる
Prisma Labs	写真を美しい絵画のように仕上げることができ。ムンクやピカソなどの有名作家風の仕上げも選べる
AIVA	元となる楽曲や感情を指定すると、それに近い楽曲を自動的に作ってくれる
Wibbitz	テキストの記事や画像を用意すると、AIが分析してサマリーの文章を作成し、それを元にビデオを自動生成
Lyrebird	音声データと音声にしたい文章を用意すれば、その音声主がしゃべっているがごとき音声コンテンツを自動作成

blockchain hub ©コンテンツジャパン堀鉄彦

「Publica」のプラットフォーム。データ駆動による自動化のひとつの方向

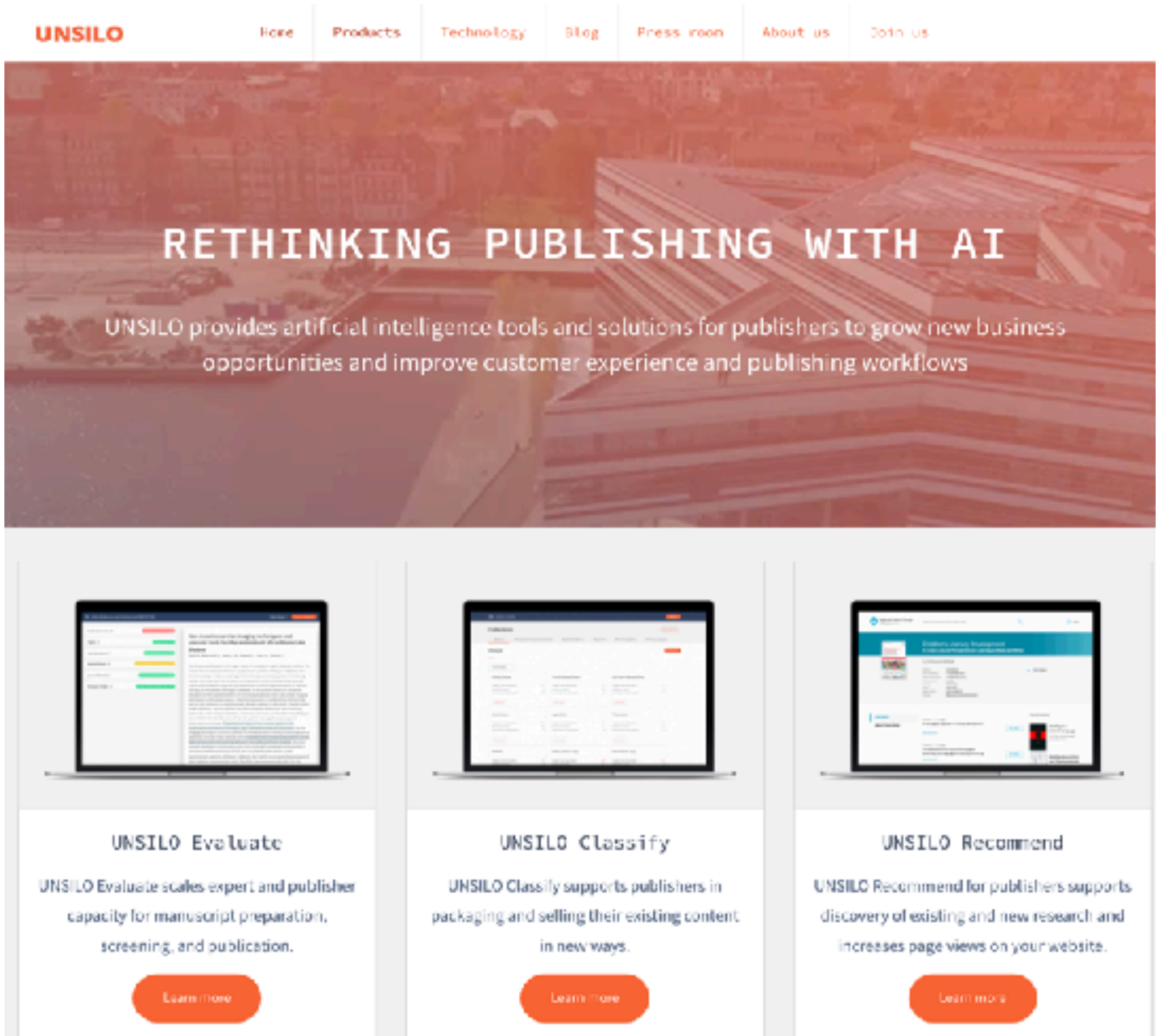
作家、読者、ブッククラブ、先生／図書館員、書店、配送業者、書籍営業、倉庫、印刷会社、装丁作家、イラストレーター、製本会社、団体／寄付者、ブックエージェント、ライティングアシスタント、コピーエディター、リテラリーエディター・サイエンスエディターなど編集者、ブロガー、作家ファンクラブ、広告コピーライター、広告イラストレーター、広告会社･･･など出版ビジネスに関わる人／組織を直結、仲介に入る事業者なしに直契約可能に

blockchain hub ©コンテンツジャ

デンマークのAIベースの出版プラットフォームUNSILO

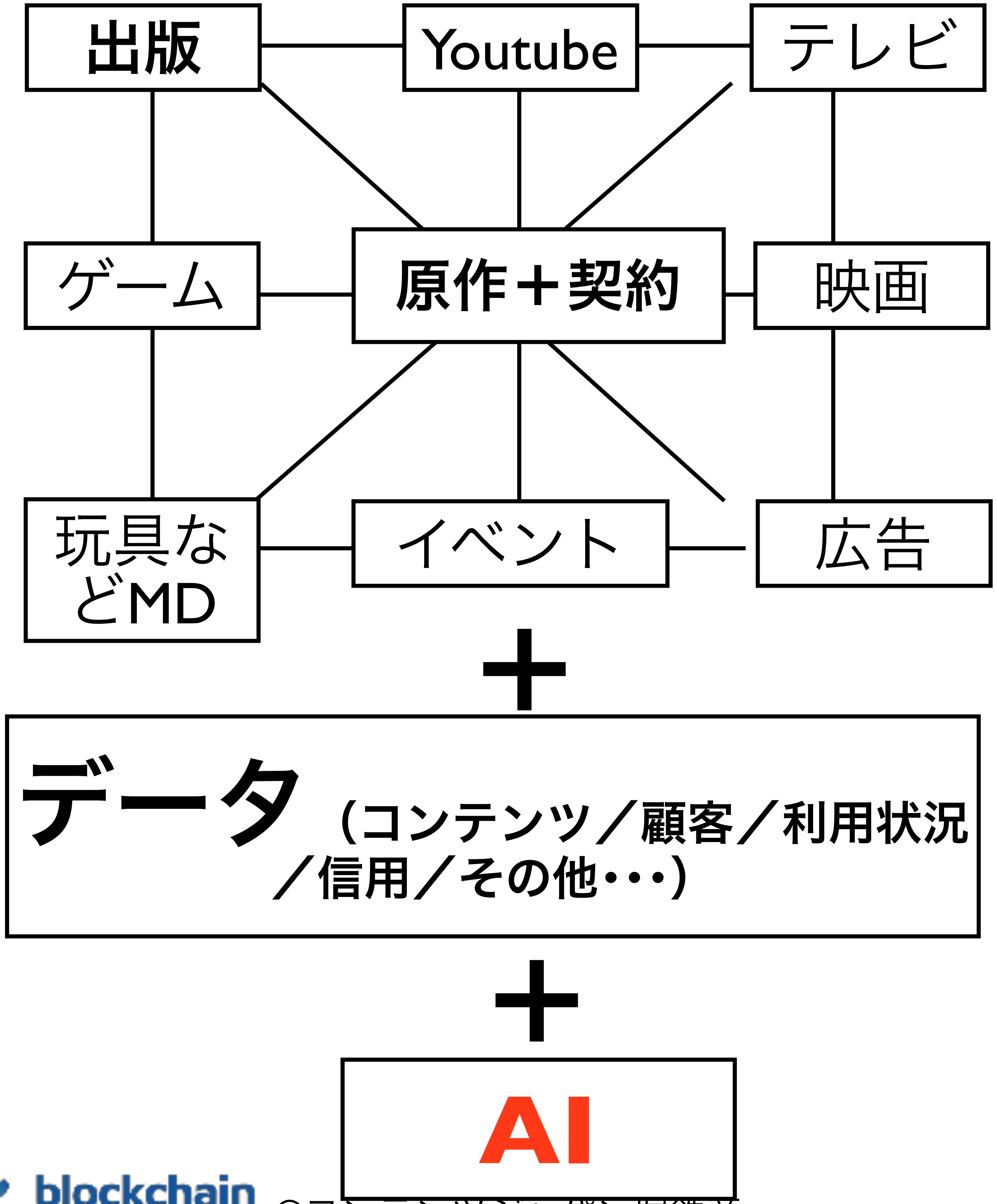
徹底的なデータ活用で、論文の査読システムなどに人工知能を活用

Springer NatureなどのSTM出版社が相次ぎ採用



blockchain hub ©コンテンツジャパン堀鉄彦

データ駆動の流れからは逃れられないが



- ダイナミックプライシング
- 信用創造＝金融環境の変化
- 所有からシェアへ
- サブスクリプション・サービス化

①オープンプラットフォーム化
②ソーシャルプラットフォーム化
③サービスプラットフォーム化

より動的存在に変化するプラットフォーム

人工知能をフルに使える“スマートプラットフォーム化”が必須

©コンテンツジャパン堀鉄彦

米国では新たなフェアユース訴訟も

©コンテンツジャパン堀鉄彦

改正著作権法の影響でどう変わる？

©コンテンツジャパン堀鉄彦